

私の工夫

なりたい自分になれるよう
児童生徒を応援する
「自立活動の指導」

県立岡山西支援学校

教諭 村井 明美



1 はじめに

校種に関わらず特別支援教育の大切さが言われるようになり「通常学級にも特別支援教育の考え方を標準装備」する時代がやってきた。学習上、生活上に困難さを抱える子どもたちへの指導としてキーになるのが「自立活動の指導」だが、子どものことをつぶさに捉え、よりよく生きていくために必要な力を育むこの指導について、難しさを感じる声が少なくない。もちろん私もその一人であり、特別支援教育を専門とする私にとって、生涯の研究テーマとなっている。

2 目標に込められた想いを 受け取る

自立活動の指導について学ぶた
びに、『特別支援学校 学習指導要領』にある自立活動の目標には、重要な言葉が込められていると痛感する。困難さは人それぞれ違うことから、「個々」に合わせて指導する必要があることや、児童生徒が「主体的に」取り組むことができるようにしなければならぬということだ。困難さによって『困っているのは教師ではなく子ども自身』であり、苦しい部分への指導であるからこそ、子どもの得意や良さを生かしながら主体的に学習したいと思うよう導かなければ

ばならない。指導の結果、子どもがハッピーになっているか、自立の姿を子どもの願いと共に描くことができているか。あくまでも主人公は子どもであることを、自立活動の目標がいつも私に教えてくれる。

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、
障害による学習上又は生活上の困難を
主体的に改善・克服するために必要な知識、
技能、態度及び習慣を養い、もって心身の
調和的発達の基盤を培う。

特別支援学校 幼稚園教育要領小学部中学部
学習指導要領（平成29年4月告示）P.199

3 子どもたちに「うまうまた らうまくいく」の気づきを

Aさんは、不安が強く集団の中に入るのがとても苦しかった。しかし、Aさんは「みんなと一緒に

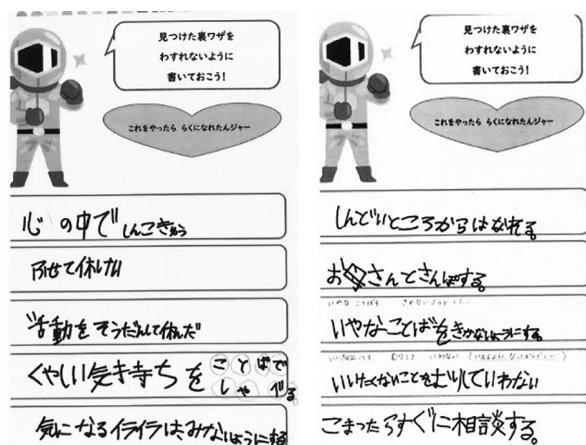
いたい」と願っていた。少しでもみんなと一緒に生活や学習ができるよう、不安定になる前に、どの活動なら参加できるか、どのようにしたら安心して活動できるかを細かく相談することにした。『相談すればうまうまく』これをAさんとの合言葉にした。「よかった！Aさん。相談したからうまうまくいった！」毎日言語化して、相談することの価値を伝えていった。修学旅行では、知らない土地でたくさん観光客の前にして動けなくなった。「村井先生」震える体を私に押し付けながらAさんが叫んだ。人ごみの中をこれ以上進んでいくことはできない。人通りの少ない路地で友達が昼食と買い物を済ますまで私と待つことを、相談のうえ決めることができた。帰りに、コンビニで買ったおにぎりを笑顔で食べ、「修学旅行、楽しかった」と言ったAさんは、今も別の信頼できる担任と相談しながら毎日の生活を送っている。

Bさんは、感情のコントロール

をするのが苦手だった。Bさんは、イライラする、しんどい、という気持ちは良くない感情だと思っていた。マイナスとも思えるその感情は、『頑張りすぎないでね』という『心からのブレーキサイン』で、大切な感情だということを伝えた。この感情が無いと、心や体が壊れてしまう。一度壊れたらなかなか治らないということを、Bさんの過去の怪我と照らし合わせて考えた。どんなときにイライラしやすいのかを整理し、苦しなつたらどのように行動すれば良いか、Bさんが楽になれる『技』を一緒に見付けていった。そして、苦しくなる前に活動をセーブすることの必要性も学んだ。技を10個も見付け、この技を参考にしながら、感情をコントロールしていく経験もできた。Bさんは3月末、「先生と勉強したら、技が20個になるかもしれない!」と嬉しそうに話した。自立活動ノートを大切に抱えて、進学していった。

4 子どもたちの応援団をつくるために

指導を進めるには、自立活動について正しく知ることが不可欠だった。子どもたちにとっての強力な応援団を作るために、自己の学びを共有することも行っている。校内外での研修、特別支援学級における自立活動の授業づくりなどに携わり、自身の学びをアップデートしている。ある小学校にはSOSを出すのが苦手なCさん



がいた。自己の課題を認識し、安心のなかで学習を重ねた。研究授業が終わり、振り返りに「コミュニケーションの技の困ったときにたずねるや、相談するは、どんな時でも使える」と書いた。「素晴らしいね!他の先生にも紹介していい?」と尋ねると、恥ずかしそうに、そして誇らしげに「別にいいよ!」と答えた。その後の協議会では、「(自分の)通常の学級にも自立活動の視点が大切だ」と話し合われた。自立活動の大切さが共有されたとき、応援団がまた増えたと大きな喜びを感じる。

ひまわりタイム ふりかえり

1月31日 まちがいさがし

がんばれたこと・うまくいったこと・また使ってみよう

コミュニケーションの技の困ったときにもたずねるや、相談するは、どんな時でも使える

5 おわりに

「これなら私はうまくいく!」そう子どもたちが気づき、なりたいた自分になっていけるように応援するのが自立活動の指導だと考えている。困難さと向き合う子どもたちを支えるためには、専門性が問われる。しかし、一番大切なのは、支えようとしている私が、子どもにも信頼してもらえているかだと、子どもの目を見て、いつも考えている。

自立活動は「困難さ」を改善・克服するというものだからこそ

